



日用  
通用文則領不珠全





朱晦庵  
幼雅  
類  
以  
圖



通雅  
用文  
珠  
頤  
京





一 生 月 八 景

てあひの月がさるる  
も 月 景

入木のつらには

ちりあさのつらと  
くれてもあさよ  
もこののつらに

孝行夕照

孝のつらに

しる雲のつらに  
しる物乃夕照



忠信歸帆

若くを吹くも

あつたはへ舟人

あつたはへ舟人

懐書秋月

あつたはへ舟人

あつたはへ舟人  
あつたはへ舟人





仁の心は落し

仁の心は落し

肩のつらさ

かたむね

世路晩鐘

夕のつらさ

くもれ

あふれ

集勲

おま

おま

おま

候夜雨

おん

か

か





万年曆入雜書

書れ上字濃板下

大いん 此神を想え天王  
とよひ方より向い

万より但一切はまをさす

いれりてまをさすこのまのまを

つまを切てをまをさす

まの方に向て切すあり

六七月の 大いん 神

切ては 大いん 神

魔王天よりまをさすあり

一やうぐん子の方あり

このまをさすと曆よりあり

こゝろまをさすあり

まのまをさすあり

かの方よりまをさすあり

大いん 神

かをさすあり

いれりてまをさすあり

一切はまをさすあり

いれりてまをさすあり

上

何守様

名案

口裏



名

上

何守様

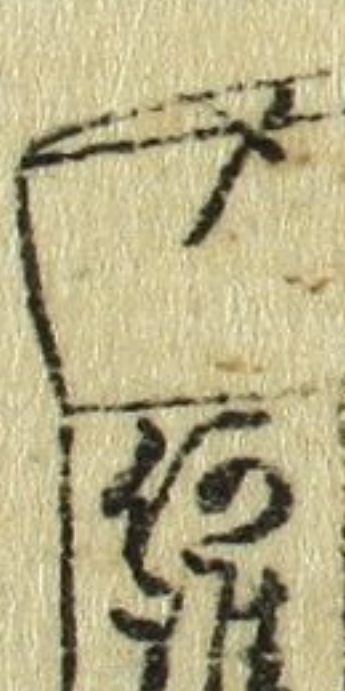
推

推換

推

何守様

何案



何守様 名案



何推



何推換 何案















ふたつあふ  
つもの神様をいふん

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

天火 あつた 地火 あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

様 あつた 殿 あつた

様 あつた 殿 あつた

様 あつた 殿 あつた

様 あつた 殿 あつた

様 あつた 殿 あつた

様 あつた 殿 あつた



いひ目 かたじけなく 口なりの便 いひ

まき まき のまに用ひ あつ え

あつ あつ のまに用ひ あつ じ

あつ あつ のまに用ひ あつ じ

あつ あつ のまに用ひ あつ じ

あつ あつ のまに用ひ あつ じ

○封の平

上夕々々 中 大封 大 封 大 封 大

夕々々 中 大封 大 封 大 封 大

夕々々 中 大封 大 封 大 封 大

夕々々 中 大封 大 封 大 封 大

夕々々 中 大封 大 封 大 封 大

夕々々 中 大封 大 封 大 封 大

夕々々 中 大封 大 封 大 封 大

あつ あつ のまに用ひ あつ じ  
あつ あつ のまに用ひ あつ じ  
あつ あつ のまに用ひ あつ じ  
あつ あつ のまに用ひ あつ じ  
あつ あつ のまに用ひ あつ じ  
あつ あつ のまに用ひ あつ じ  
あつ あつ のまに用ひ あつ じ  
あつ あつ のまに用ひ あつ じ  
あつ あつ のまに用ひ あつ じ  
あつ あつ のまに用ひ あつ じ









人のたまりぬを憂ふ  
 本丸くくくく大なるの  
 山もまきとせう今もま  
 又もあつちうのわき  
 守りきととちうと  
 ねのせんともりきと  
 いまうらうさう知らん  
 ともそとととととと  
 年せいのひしととと  
 大目よとらひととと  
 いねい八まん  
 万年曆



通用文則領下珠  
 年始造と大  
 改春之沖有慶  
 先以世家の法採



萬物數  
量字盡

一儀五斛

一石五斗

一合五勺

一厘五毫

一忽五上

一丈五尺

一石五斗

一斗五升

一斛五石

一候五魚

赤心委素の成法

運成の目也の度の儀

なぬの波の面の方の量

突加の年の結の何のる

五用の一の言のをの結のる

聊年の氏の也の祝の加の事の

今度の語の也の何の在のい

從切の水の自の之の時の作の

志の性の清の之の

回返の事の



女  
貝

一 獲菜一 點

一 刺菜一 豆

一 履和掛一 軸

一 琴鼓一 反

一 海狀一 瓦

一 王馬一 布

也 質 波 有 補 依

如 依 喜 陽 之 出 加

祥 足 下 有 自 之 較 小

清 家 也 志 信 壯 健

家 以 遠 年 一 瑞 之

年 救 小 港 之 為 清 台

例 統 府 之 為 年 之 之

之 深 厚 之 統 信 之 為

永 聖 之 均 光 氣 之 以 獲

可 中 迹 下 足 後

一 仍書一 束

一 瓶酒一 瓶

一 冊書一 部

一 卷經一 篇

論語子學

一 機又一 撮

女  
川

三



文具

一對 筆 一管 筆

一柄 扇 一枚 酒

一樽 香 一杯 酒

一盞 茶 一鉢 茶

一挺 香 一管 香

一匣 茶 一筒 茶

一斗 茶 一箱 茶

一粒 茶 一撮 茶

一標 茶 一帖 茶

一管 茶 一筒 茶

一帖 茶 一管 茶

一帖 茶 一管 茶

野遊 儀 杖

萬里 雲 綺 綺 綺 綺 綺 綺

外 外 轉 轉 心 心 心 心

梅 梅 梅 梅 梅 梅 梅 梅

明 明 明 明 明 明 明 明

病 病 病 病 病 病 病 病

軍 軍 軍 軍 軍 軍 軍 軍

別 別 別 別 別 別 別 別

同 同 同 同 同 同 同 同

以 以 以 以 以 以 以 以

世川

四







五具

一戰軍

一遇

一色

一能

一壺

一族

物其其年之修也

一安先方に於る人

中にも又も増得人

さる中い事あはれ

五三言あはれに事あ

一家

一姓

一尚

一門

一切

一悔

及出少法い

心人趣向を疾

唯今新用事海外

新中い世に一統

社中い度い時

三

六



一 笑 一 方  
一 致 一 友  
一 撲 起 一 味  
一 徽 一 詩  
一 氣 一 抱  
一 情 一 根

度 年  
回 年  
少 年 每 年 一  
在 堂 海 上 一  
悔 一 人 一 悔 一 友

一 唱 一 會  
一 聲 一 聲  
一 亂 一 白  
一 身 一 心  
一 籍 一 句  
一 統 一 言

節 一 人 一 人 一 人  
口 端 一 人 一 人 一 人  
一 人 一 人 一 人 一 人  
一 人 一 人 一 人 一 人  
一 人 一 人 一 人 一 人  
一 人 一 人 一 人 一 人









一命 一死 一列 一采 一虫 一志 一誓 一誓  
 一紙 一文 一搖 一生 一采 一列 一命

文  
 具

長日此 雜 小 致  
 清内室 様 思 様  
 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

同 如 如 如 如 如 如 如 如  
 月 如 如 如 如 如 如 如 如  
 空 如 如 如 如 如 如 如 如



文  
具

一 字 跡 一 天

其 誰 人 敢 為 之 死

一 子 子 子

足 以 為 萬 代

一 天 四 海

更 敢 往 為 妻 子

一 國 平 地

後 是 宜 而 終 也

一 幸 而 得

好 事 一 得 之 事

一 新 分 身

好 事 一 得 之 事

一 大 右

薄 命 同 人 狀

一 由 旬

世 間 之 風 氣 自 然 也 ね

一 為 宗

其 誰 之 氣 亦 然 也

一 派 立

任 德 令 人 百 人 之 氣

一 字 難 易

立 於 中 者 幸 而 得 也

一 千 重

立 於 中 者 幸 而 得 也

文  
具

十



文則

二十八宿

角亢氏房

心尾箕斗

牛女虛危

室壁奎婁

胃昂畢觜

參井鬼柳

星張翼軫

二王 右弼金剛

二王 左輔金剛

二王 王義之

二王 王獻之

二王 兄弟二字

二世安宗

己約おあゆま

佛行修し江

少あ務は回

しるも痛は

なまふとこ

考行をか

あまよ

おろ

伊

道



三世三劫

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

三皇天皇 地皇 人皇

文具

文具





文具

三都 大京

三ヶ所 とも

三礼 は合茶

三社 は宣

を律ま

八極を

其日

三光 日月星

かき てん

清 りん

以 てん

病 びやう

御 ご

早 はや

由 よし

少 すく

清 きよ

后 ご



三 江 登

大 雲 寺 藏 經

規 常 書 卷 之 一

阿 彌 陀 經

三 韓

新 羅 百 濟

三 伏

龍 一 句 備 考 記

引 正 史 卷 之 一

考 自 一 狀 記

回 卷 之 一

考 自 一 狀 記

初 伏 中 伏

三 考 考 校

考 考 考 校

考 考 考 校

三 考 考 校

考 考 考 校

考 考 考 校

考 考 考 校

考 考 考 校

考 考 考 校

考 考 考 校

考 考 考 校



四時 春夏秋冬

四季 春夏秋冬

四教 通別因

四姓 源平友成

四民

士農工商

四天 多一抄

四熱 揚名唐自

四國 國王國土

四園 又四院

四園 又四院

高下為人知

父母之始終

日之出入

高下之老幼

高下之音聲

夜中視之仍舊

年終百把律

之進下之業

後身下濕氣

此節也



天台

东大寺具足

延曆寺園城寺

浄土

知恩院王谷

百万遍浄土院

四衆

比丘比丘尼  
優婆塞優婆夷

又常

仁義禮

智信

又約

金剛土

金剛

又新

地水火風

新章收作

日蓮宗

為瑞陽之教

法華指歸

見之佛人教

一教之旨

每夜以慈悲心

念之佛菩薩

念之佛菩薩

事下之別

大川

十一



入 攝

心 肝 脾  
肺 腎

入 色

青 黃 赤  
白 黑

入 味

酸 苦 甘  
辛 鹹

入 穀

味 大豆 小豆  
大麦 小麦 粟

入 辛

椒 荜 麥

入 戒

鴉 粟

毒 業 以 胎 進 敏

中 友 以 以 固 潔 之 為

少 年 之 下 以 之 之 為

和 懷 於 涉 於 傳

人 誰 之 之 為

同 也 毒

以 亦 之 之 亦 也 之 人 之 傳

之 之 明 之 之 完 之 之 也

之 之 清 之 之 之 之 也

之 之 之 之 之 之 也

六三

十七



殺生偷盜邪  
婦妄語飲酒

入表

天人のふま

入逆

父母と殺むる  
より血と平  
殺漢を殺  
和合傷と

入考

宮高角  
徵羽

入蜀

劫見濁  
煩腦濁衆  
生濁命濁

入惡逆

多乳

通尚

打拵

多乳

奇可

多乳

此程

多乳

此程

多乳

此程

多乳

此程

多乳

此程

多乳

此程

多乳

此程

多乳





大川

十九

幸か不幸か  
 中流に舟ありて  
 浪高き波に  
 揺られし舟に  
 舟人其の  
 心苦しむ

地獄鐵鬼畜  
 生後羅人間

入山

天竺の山  
 建仁の末福

入經

詩經書經  
 易經春秋  
 禮記

其の目録の序

目録の序

管の人の徳無き  
 心掛りて  
 不借回とて  
 末の波



入葉

李杏 櫻 栗 栗

六報

眼耳鼻 舌身意

六識

色聲香 味觸法

六親

父母兄弟 弟妻子

六腑

心肺脾 腎命門

六感

天眼耳 他心宿命

神を養ふ人き

時を名に候

神を養ふ候

土結を解く

寤を候

希候

同也

命を先く

命を先く

命を先く

支川

元



神境漏盡

六藝

礼樂射  
御書數

六義

風賦比  
興雅頌

六義日

八月十四日  
九月九日

六波羅卷

施戒忍  
精禪智

六畜

雞犬牛  
羊馬豕

六親

補之申之也

人若及之

世也

汚之也

思之也

以之也

清之也

及之也

成之也

在之也

六親

七十一



千手觀音

聖

了

十

準

如

六地

山

挂

聖  
如  
了  
十  
準  
如  
六地  
山  
挂

高  
善  
為  
凡  
百  
病  
收  
愈

今  
一  
日  
出  
用  
法  
之  
色

今  
一  
日  
出  
用  
法  
之  
色

同  
也  
事

六奇

左

右

文

在

大

六合

北

上

下

台  
海  
波  
聲  
不  
傳  
之  
片

少  
何  
故  
言  
心  
之  
初  
迹

清  
事  
今  
之  
年  
之  
中

忍  
性  
由  
極  
善  
得  
心

何  
事  
即  
投  
身  
之  
處

大川

五二





文則

七三

幸何ぞやと清は  
 宿の因む友以後  
 身ねん時ふみ出る  
 思ひ直一今仕合  
 別らば家内と海定

七賢

密康院籍  
 院成尚秀  
 王戎劉伶  
 山濤

七賢

貪狼巨門  
 認存文曲  
 廉貞武曲  
 破軍

水葉子孫く  
 首魚は徳四  
 ふもねいあま  
 しく清れ  
 諸り梅る人



七虎

沙弥 式油弥尼

比立泥 塞優安夷

七後

身香 肥鮮

衣淨

Handwritten cursive text, likely a poem or prayer.

Handwritten cursive text, likely a poem or prayer.

Handwritten cursive text, likely a poem or prayer.

Handwritten cursive text, likely a poem or prayer.

Handwritten cursive text, likely a poem or prayer.

七守山

比戲以 神峰宅岩全

七室

金銀福 玻璃碑渠

八景 遠浦 帆

Handwritten cursive text, likely a poem or prayer.

Handwritten cursive text, likely a poem or prayer.

Handwritten cursive text, likely a poem or prayer.

Handwritten cursive text, likely a poem or prayer.

Handwritten cursive text, likely a poem or prayer.

七四



八景  
比叟雪  
平沙落雁  
遠寺晚鐘  
漁村夕照  
洞庭秋月  
蕭湘夜雨  
江天暮雪  
山市晴嵐

萬事以總之  
一以別之  
取法用方什  
致意於東國  
影大異之  
師匠を教へ  
私を教へ  
世修業を  
一之不知  
半を教へ

八宗  
大焦熱無同  
大叫喚集  
衆合叫喚  
等活里繩  
大地獄  
栗津時  
石山月  
田落石

師匠を教へ  
私を教へ  
世修業を  
一之不知  
半を教へ



法相之論  
俱舍成實  
律華嚴  
天台真言

八苦

生苦老苦  
病苦死苦  
老別離苦  
五陰盛苦  
求不得苦  
怨憎會苦

八禮

謀及大逆  
不道不孝  
不孝不義  
惡逆

八卦

坎震巽  
離坤兌乾

八所御靈

聖德太子

一命

生

老

病

同

死

別離

五陰盛

求不得

怨憎會







上品下生

中品上生

中品中生

中品下生

下品上生

下品中生

下品下生

十惡  
殺生偷盜  
邪淫妄語  
綺語惡口

兩舌貪欲  
嗔恚愚癡

十善

十要之作  
善哉

十幹

甲乙丙丁戊己庚辛壬癸

十二支

子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥

少儀のりまはら

わけはく 讀み

百把星上は

少くも

こま

同也

如香の

新祀守

為

義



十二時

子 夜半の八ツ  
丑 朝の八ツ  
寅 平旦の八ツ  
卯 日出の八ツ  
辰 食時の八ツ  
巳 隅中の八ツ  
午 日中の八ツ  
未 日没の八ツ  
申 晡時の八ツ

毎度以勸巧之所  
赤舟ぬく一航之  
冷風凍僅を身  
宵一酌の待必  
山嵐を舟人

十三時

酉 日没の八ツ  
戌 黄昏の八ツ  
亥 人定の八ツ  
子 夜半の八ツ  
丑 朝の八ツ  
寅 平旦の八ツ  
卯 日出の八ツ  
辰 食時の八ツ  
巳 隅中の八ツ  
午 日中の八ツ  
未 日没の八ツ  
申 晡時の八ツ

棟とて程も状  
今日依る良辰也  
梁柱以之天去地  
久ち程も人定之  
風流を舟好不自

大川

七九



篇冠據

才王十

陸田

イ力

貝負才

目集

骨足力

耳以舌

筆牙多

廿門口

月月

千方欠

以車新しんしとふふ

のりのりととおおとと下下走走

尚しやう中ちゆうののりり根こん像ざう生せい

矣い一いつ新しんののりり根こん像ざう生せい

ととをを下下下下

回かいののりり

精せいののりり中ちゆうののりり度ど

綺き屋やののりり造ぞう代だいののりり

大だい不ふののりりととののりり探たんののりり取と

初しよののりり美み者しやののりり母ぼののりり息そく

大川

三十一









身	父	子	母	兄	弟
身	父	子	母	兄	弟
身	父	子	母	兄	弟

女  
貝

此身は此の世に  
 生れしは此の世に  
 死すは此の世に  
 生れしは此の世に  
 死すは此の世に  
 生れしは此の世に  
 死すは此の世に

同返事

此身は此の世に  
 生れしは此の世に  
 死すは此の世に  
 生れしは此の世に  
 死すは此の世に  
 生れしは此の世に  
 死すは此の世に

女  
貝

世



玄	序	八	兄	皮	龍	大	取	牛
纒	七	ノ	風	尊	子	象	草	羊
一	七	ノ	す	葉	中	鳥	産	羊

文具

尚書  
 取居  
 龍  
 佛  
 不悔

玄  
 序  
 八  
 兄  
 皮  
 龍  
 大  
 取  
 牛  
 羊

七三

七三



女具

世三

凡うり多おほ西にし

本もと曾そトと

又また心こころ國くに

白しろ向むか

編あ終はつ

入い性せい書しよ判はん

多おほ信しん御ご經きやう家け

と推おし音おとかかももああもも

心こころ中ちゆう品しん々々同どう

手て差さ込こみみひひらら親おや

吸す赤せき浦うらくくりりののりり

同どう大だいのの

二に男おとこ後ごせせ長なが侍しやうれれ

聖せい者しや有ありり人ひと々々常じやう

内うち々々ねね世よ々々少すく高たか

廊らうおお始はじりり人ひと々々子こ々々建た

福ふく点てん  
德とく点てん  
注しゆ賢けん

命めい点てん  
運うん点てん  
聖せい

智ち惠ゑ点てん

病びやう拂はら点てん

眷くわん原げん点てん

大だい月げつ

世せい四し













くろくひん  
 のとのふま  
 づ  
 源の二点  
 のふま  
 りん  
 むく  
 住  
 なる  
 てかく

もの賣  
 一  
 の  
 得  
 ろ  
 得  
 ろ  
 得  
 ろ

和  
 百  
 夜  
 毎  
 并



本姓

𠃉

あま  
す  
つ

𠃉

あま  
す  
つ

𠃉

あま  
す  
つ

𠃉

あま  
す  
つ

物と物と力と力と

目と目と心と心と

何と何と耳と耳と

舌と舌と其と其と

口と口と其と其と

同也

目と目と心と心と

何と何と耳と耳と

舌と舌と其と其と

口と口と其と其と



火性

𠃉

あま  
むら

𠃉

あま  
むら

たげとてはるかに  
たげとてはるかに

てんてん  
てんてん

いん  
いん

いん  
いん

いん  
いん

𠃉

あま  
むら

𠃉

あま  
むら

旅宿のふりかへ

今年もあつた

清浄なる

物種たる

雲陽は



土姓

𠄎

あなごま  
いごま

𠄎

あなごま  
いごま

増まのん魚りのらあん

左さ様やうのらあんのらあん

身み兼か女にさらのらあん

流りゅうのらあんのらあん

用ようのらあんのらあん

𠄎

あなごま  
いごま

𠄎

あなごま  
いごま

日にのらあん

トとのらあんのらあん

ららのらあんのらあん

ええのらあんのらあん

連れんのらあんのらあん



金性

𠃉

六つども

𠃉

七つども

花のつぼみは

地を多に

其のつぼみ

山に素

公をなす

𠃉

三つども

𠃉

四つども

羊の毛

田のつぼみ

其のつぼみ

穀のつぼみ

田のつぼみ







大日本國

▲五畿内四十五

山城上之管八郡

淀城

大和上之管十八郡

高取城

柳井  
芝村



家  
あ  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん

子  
把  
さ  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん

母  
信  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん

馬  
子  
ね  
い  
の  
の  
の  
の  
の  
の

海  
れ  
の  
母  
の  
母  
の  
母  
の  
母

家  
組  
今  
般  
百  
の  
志  
の  
志

就  
根  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の

家  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の

山  
月  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の

大和

四十一



柳生  
郡山城

小泉

新庄

河内  
大管  
十郡

鞍山

丹南

和泉  
三郡  
一管

岸和  
田城  
伯太

榑津  
上管  
十二郡

尼崎城

高槻城

三田城

麻田

東海道  
四入十

伊賀  
下管  
四郡

上野城

大徳寺  
寺  
僧  
人  
行

寺  
岩  
の  
席  
死

養  
余  
人  
の  
中

系  
統  
の  
足  
を  
傳

伊  
賀  
野  
下

同  
也  
の

中  
の  
言  
今  
律  
第  
一  
の

始  
と  
の  
午  
時  
に  
水

雨  
我  
あ  
ま  
と  
の  
酒

常  
々  
ら  
し  
め  
ら  
れ  
る



伊勢 大管  
十八郡

安濃津城

久居

南林崎

八田

龜山城

桑名城

神戸城

長嶋城

古茂野

志摩 下管  
二郡

鳥羽城

尾張 下管  
八郡

名古屋城

美濃 上管  
八郡

刈屋城

吉田城

奥殿

岡崎城

志摩 大管  
十八郡

安濃津城

久居

南林崎

八田

龜山城

桑名城

神戸城

長嶋城

古茂野

志摩 下管  
二郡

鳥羽城

尾張 下管  
八郡

名古屋城

大川

四十五



西尾城

田原城

峯母城

大濱

遠江上管十四郡

相良城

淡松城

掛川城

横須賀城

駿河上管七郡

松永  
田中城

小島

甲斐上管四郡

伊豆下管三郡

相模上管八郡

小田京城

武藏上管六郡

岡部

西尾城  
田原城  
峯母城  
大濱  
遠江  
相良城  
淡松城  
掛川城  
横須賀城  
駿河

甲斐  
伊豆  
相模  
武藏  
岡部

松永  
田中城  
小島

甲斐  
伊豆  
相模  
武藏  
岡部

甲斐  
伊豆  
相模  
武藏  
岡部

甲斐  
伊豆  
相模  
武藏  
岡部

甲斐  
伊豆  
相模  
武藏  
岡部

甲斐  
伊豆  
相模  
武藏  
岡部

甲斐  
伊豆  
相模  
武藏  
岡部



金沢  
河越城

忍城

久松

岩槻城

安房  
中管  
四郡

勝山

北条

上總  
大管  
十一郡  
久留里城

大田森城

飯世

佐黄城

下總  
下管  
十一郡

高岡

多古

佐倉城

古河城

園宿城

結城城

小見川

地はなを同水取

面倒は好くりま

下程は他物も

情は重くしるに

免角は魂を

程言調を

貴さくは

尾調は

村系は

程瑞奉程は



常陸

生家

水戸城 府中 完戸 土浦城 笠岡 下館城 麻生 牛久 俗田部 下妻

東山道

四ヶ所

近江 彦根城 水口城 仁聖寺 膳所城 大溝城 小室 山上 堅田

カニ徳式之類

橋二と伝説々々

久美山と酒

珠流の親縁以飲

之車大方と推量

同也

南親岡屋相人住

清きしりし海松長

此度及近新坂以辰

果しるは子又母二子

大川

四ヶ所







上野 大管  
上野 十四郡

矢田

高橋城

安中城

館林城

上野山

伊勢崎

七日市

小幡

沼田

下野 大管  
下野 九郡

壬生城

烏山城

大田原城

黒羽根

森越川

足利

宇都宮城

陸奥 大管  
陸奥 五十郡

宇津城

守山城

白川城

二本松城

福島城

なほさしふるおのり

ひらきふはらふ

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

文具

百六

川

五



仙基城 一之園城 森屋城 八戸城 弘前城 三春城 和泉城 岩城 棚倉城 松前 湯長谷 中村城 出羽 上管 十二郡

秋田城 同新田 幸庄城 亀田 上山城 庄内城 松山城 山形城 新庄城 米沢城 同新田 高畑

奉<sup>に</sup>ま<sup>に</sup>ね<sup>ん</sup>鐵<sup>こ</sup>  
家<sup>の</sup>意<sup>と</sup>天<sup>の</sup>概<sup>ひ</sup>沙<sup>の</sup>人<sup>ら</sup>  
臨<sup>り</sup>理<sup>り</sup>追<sup>り</sup>る<sup>る</sup>多<sup>る</sup>標<sup>は</sup>  
聖<sup>の</sup>傍<sup>り</sup>の<sup>り</sup>鞋<sup>は</sup>履<sup>は</sup>  
臨<sup>り</sup>理<sup>り</sup>追<sup>り</sup>る<sup>る</sup>多<sup>る</sup>標<sup>は</sup>

同<sup>の</sup>利<sup>り</sup>の<sup>り</sup>利<sup>り</sup>の<sup>り</sup>利<sup>り</sup>  
徳<sup>の</sup>京<sup>の</sup>の<sup>り</sup>度<sup>り</sup>の<sup>り</sup>城<sup>は</sup>凡<sup>は</sup>  
侍<sup>の</sup>大<sup>の</sup>等<sup>の</sup>者<sup>ら</sup>名<sup>は</sup>石<sup>は</sup>程<sup>は</sup>  
中<sup>の</sup>河<sup>の</sup>平<sup>の</sup>を<sup>り</sup>儀<sup>は</sup>お



▲北陸道四十七

若狹中管三郡

越前小濱城大管十二郡

福居城

丸岡城

大埜城

勝山城

敦賀城

鯖江城

加賀上管四郡

金沢城

大聖寺城

能登中管四郡

越中上管四郡

富山城

越後上管七郡

与松

村上城

北陸道四十七

若狹中管三郡

越前小濱城大管十二郡

福居城

丸岡城

大埜城

勝山城

敦賀城

鯖江城

加賀上管四郡

金沢城

大聖寺城

能登中管四郡

越中上管四郡

越後上管七郡



文具

新發田城

長世城

高田城

糸魚川

黒川

推谷

村松

三河市

佐渡 中管 三郡

山陰道 八

苗村 澤 難 あり

信田 船 心 所 持

の 由 不 車 股 位

其 令 秘 も 心 あり

物 取 入 下

丹波 上管 六郡

笠山城

急山城

福智山城

園 郡

後 郡

山家

丹後 中管 五郡

宮津城

因島城

峯山

私 令 秘 入 心 あり

来 入 心 あり

鎮 心 あり

今年 心 あり

多 心 あり



但馬 上管 八郡

出石城

出石城

因幡 上管 七郡

鳥取城

鳥取城

同新田

伯耆 上管 六郡

松江城

松江城

石見 中管 六郡

濱田城

濱田城

隱岐 下管 四郡

津和野城

津和野城

山陽道 八郡

姫路城

明石城

赤松城

赤松城

但馬 八郡 出石城

因幡 七郡 鳥取城

伯耆 六郡 松江城

石見 六郡 濱田城

隱岐 四郡 津和野城

山陽道 八郡

姫路城

明石城

赤松城

赤松城

文目

五十三

文目

五十四



林田

小笠

三草

美作 上管 七郡

津山城

岡山

備前 上管 十一郡

岡山城

同新田

備中 上管 九郡

松山城

足守

廣瀬

備後 上管 十四郡

福山城

安藝 上管 八郡

廣徳城

同新田

度々掛紙心腹

海岳を収める

中世を治す

経名は下野野政

尚ら色色と

名自然なる

人々の心

道又此の

見事なる







宇和島城

大洲城

吉田城

新谷

土佐

高知城

西海道

筑前

福岡城

秋月城

筑後

上管

久米城

柳川城

池

豊前

小倉城

中津城

同新田

豊後

岡城

臼杵城

杵筑城

本森

田出城

久米新入人

所生もの如華

一向

生座

秋尾

九月

宇陽

乃る

花

結



肥前

府内城  
佐伯城  
上管  
十一郡  
佐賀城  
唐崎  
蓮池  
小湊城  
唐津城  
五島城  
平戸城  
同新田  
大村城  
修原城

年々少減式下

拉下二

不斜

余毫切

お

肥後

中管  
十四郡  
熊本城  
宇土城  
同新田  
球磨谷城  
日向  
中管  
五郡  
飯肥城  
高鍋城  
佐土系城  
延岡城

同返車

有九

少

お

と

大隅

中管  
八郡



薩摩 中管 十四郡

鹿兒島城

壹岐 下管 二郡

對馬 下管 二郡

府中城

壹岐對馬

二箇國者

為餘慶

以上六十八列

五姓名頭

本 性 義 文

八 彌 兵

半 控 口

虎 万 郊

朋 武 子

望加儀 日向

情 辰 子 清 辰 辰

味 菊 辰 辰 清 舟

被 辰 辰 辰 辰 辰

色 辰 辰 辰 辰 辰

袴 辰 辰 辰 辰 辰

結 辰 辰 辰 辰 辰

足 辰 辰 辰 辰 辰

衣 辰 辰 辰 辰 辰

長 辰 辰 辰 辰 辰

大川

五





因<sup>こ</sup>て<sup>あ</sup>ら<sup>は</sup>せ<sup>し</sup>て<sup>一</sup>  
 清<sup>きよ</sup>は<sup>ら</sup>せ<sup>し</sup>て<sup>今</sup>も<sup>も</sup>補<sup>お</sup>は<sup>す</sup>  
 守<sup>まも</sup>り<sup>の</sup>心<sup>こころ</sup>を<sup>お</sup>も<sup>ひ</sup>て<sup>務</sup>  
 め<sup>い</sup>は<sup>し</sup>め<sup>ば</sup>い<sup>は</sup>れ<sup>ば</sup>見<sup>ま</sup>  
 り<sup>し</sup>め<sup>ば</sup>い<sup>は</sup>れ<sup>ば</sup>見<sup>ま</sup>  
 り<sup>し</sup>め<sup>ば</sup>い<sup>は</sup>れ<sup>ば</sup>見<sup>ま</sup>

十一

性 <sup>せい</sup>	邦 <sup>ほう</sup>	梅 <sup>うめ</sup>	本 <sup>ほん</sup>	福 <sup>ふく</sup>	百 <sup>ひゃく</sup>
免 <sup>めん</sup>	麻 <sup>あ</sup>	包 <sup>ほう</sup>	舟 <sup>ふね</sup>	平 <sup>へい</sup>	波 <sup>なみ</sup>
養 <sup>よう</sup>		房 <sup>ぼう</sup>	芳 <sup>ほう</sup>	間 <sup>ま</sup>	品 <sup>しん</sup>

支那

花<sup>はな</sup>を<sup>い</sup>は<sup>し</sup>め<sup>ば</sup>見<sup>ま</sup>  
 り<sup>し</sup>め<sup>ば</sup>い<sup>は</sup>れ<sup>ば</sup>見<sup>ま</sup>  
 り<sup>し</sup>め<sup>ば</sup>い<sup>は</sup>れ<sup>ば</sup>見<sup>ま</sup>  
 り<sup>し</sup>め<sup>ば</sup>い<sup>は</sup>れ<sup>ば</sup>見<sup>ま</sup>  
 り<sup>し</sup>め<sup>ば</sup>い<sup>は</sup>れ<sup>ば</sup>見<sup>ま</sup>



利	老	壯	通	針	菊	源	定	費	加	九	角
仁	實	忠		形	胸	龜	金	佐	崇	吉	助
治	理	友		廣	實	之	入	破	虎	亮	久

子馬可平也得之孫  
 生長之果之入  
 高冠之也之孫  
 一向也也之也  
 子馬也也之也

老實之也之也  
 壯健之也之也  
 通也之也之也

丈則

六十一



性	在	仲	丑	六	傳
与		林	尚	貞	去
一		竹	十	括	順

鶴卯一箱を以て侍  
 減り申し申す  
 申すに奉り申す  
 札以て申す  
 奉り申す

運	好	又	安	嘉	侍
意	由	順	然	字	表
右	要	賀	乙	乙	和

同五  
 侍  
 得  
 奉  
 申  
 申  
 申

大則

三十一



庄	濤	性	八	半	為
三	宗	新	武	茂	魚
擲	甚	善		孫	雨

道好い河を何候と  
 為清見之森精一  
 番之身之云  
 仕合中不為約面  
 上直擲之云不

初	美	熱	政	七	日
照	辰	瀧	崇	市	作
光	巳	心	松	子	次

大車之ん森を状  
 今相取之ん森  
 自清町之ん森  
 中無清園之ん森  
 今辰辰保風上

文  
 三  
 三

三十三



積種文

足新傍

不眠

右乃又字の  
韻鏡の尾

とあり

とて海通の如き

義証はた大衆の

信をねらふもの

思ふとてあ無人の

中しとてあ証の

不成就日

正七 三十九 九十七

二六 二十八 九十六

三元 一十七 九十五

四 四 九十二

五 五 九十三

空 六 九十四

日かき

あはれなり

なほ伏し

おれも

あはれなり

丈則

十四



斤俵名いろほ

ナレレワわリリホほイい  
ラソろカかヌぬへへ口ろ  
ムいツつヨよルルトとハハ  
ウ子ぬタたヲとチちニに

モもミみサさココヤや井の  
セセシしキきエはマまノの  
スすエえユゆテてケけオた  
ニひメめアのフふクく

京

抑子おさのこのなをな風  
向むかおのるる免めん道だう下げ人  
世よのよのよはは今いまももも  
大おほ方ほう悦えつのの生なまをを  
おお徳とくのの生なまをを

年としのの末すえのの末すえのの末すえ  
為なのの末すえのの末すえのの末すえ  
わわのの例れい母ぼのの例れい母ぼ  
とと進しん入にゅうのの別べつのの別べつのの別べつ  
とと世よのの世よのの世よのの世よ

四十一

八



十幹土交  
同異名

剛逢  
旗蒙

甲  
震

柔北  
澤園

丙  
巽

目如及好のまよ

其能のまよ上のまよ町のまよ録のまよ

明去のまよ澤のまよののまよ事のまよさのまよ

官のまよ収のまよ可のまよ申のまよ作のまよ

同のまよ也のまよ

著雍  
屠維

戊  
己

上章  
重光

庚  
辛

玄默  
昭陽

壬  
癸

の終のまよ日のまよののまよ前のまよののまよ

吾のまよ何のまよ沛のまよ小のまよ神のまよ一のまよ重のまよ

不のまよ也のまよ直のまよ也のまよ少のまよ也のまよ何のまよ

幾のまよ久のまよ矣のまよ以のまよ載のまよ往のまよ矣のまよ

以のまよ終のまよ子のまよののまよ速のまよ也のまよ何のまよ也のまよ





書林	圖	卦	八
日新西口小濱町	巽下斷	☰	乾皆連
海部屋勘兵衛板	坎中連	☷	兌上斷
	艮上連	☲	離中斷
	坤皆斷	☳	震下連
	風	天	澤
	水	火	雷
	山	地	



管之能之月人今  
 打插之て何也  
 少行定之取備也  
 事之能行難之  
 運之能之也



